

ています。



POINT 03

子どもパークレンジャー

子どもたちに草原を知ってもらう取り組み「草小積みづくり」に挑戦

「子どもパークレンジャー」は、子どもたちが環境省のレンジャー（自然保護官）とともに阿蘇の自然と触れ合い、保護活動を学ぶことをねらいとして、文部科学省と環境省が協働で行っている活動です。

10月20日、熊本市などから小学生9名が参加し、永草牧



草原で草小積みづくり

野で草小積みづくりに挑戦しました。牧野組合員の指導のもと、子どもたちは、刈り取られた草を稲わらで束にし、積み上げるのを手伝って、二つの草小積みを作りました。

この他にも、草原の景観維持を呼びかけるチラシの配布、ゴミ拾い、植物銘版づくりやススキでフクロウをつくるクラフトなど、阿蘇ならではの作業を体験しました。

TOPICS

ぬりえコンテスト

小学校低学年向けの「そうげんしんぶん」に掲載しているぬり絵のコンテストを実施しています。12月発行の第4号のぬり絵は、採草作業のイラストに自由に書き込める吹き出しをつけました。163点ものユニークな作品が集まっています。

2月9日～2月末まで、休暇村南阿蘇で展示されます。



二次的自然を学ぶために名古屋市からやってきた子供たちに、草原の植物の由来などを説明



POINT 04

回を重ねる、出前講座

環境省では、阿蘇の草原の魅力を知ってもらうため、スタッフが学校や現場に出かけて話をする「出前講座」を実施しています。今年度は、産山小学校、宮地小学校、中通小学校、阿蘇北中学校、白水中学校、阿蘇高校など地元の学校の生徒や、地域外からの修学旅行生を対象にした講座を行いました。

学校だけでなく、草原に出かけたり、宿泊施設の会場を利用したり、いろいろな形で実施しています。講話のほか、クイズやゲームを取り入れて、子どもたちが楽しみながら学べるように

工夫しています。

講座のあとの感想には、「まだまだ自分は阿蘇について知らないなと思いました。」(中3)といった内容が多く、「阿蘇の草原の草で育ったものを食べたりすれば草原は守られていくことを聞いておどろきました。」(中3)、「山にいるうしがほとんどがメスとはじめてしりました。」(小2)など感動した様子が伝わってきます。「農業といろいろなことを学び、だれかにつたえていきたいです。」(中3)という将来の希望を述べた生徒もいました。

Interview

草原再生への期待

古閑茂雄氏

阿蘇市市民環境課
新エネルギー推進係長
阿蘇市一の宮町坂梨在住



バイオマスエネルギーで経済的に成り立つしくみを

阿蘇では、かつて草原の草をうまく循環利用していましたが、今は農畜産など従来の使い方だけでは草が余っている状況です。そこで阿蘇市では、使われない草資源を活用するため、平成17年度からバイオマスエネルギー実験事業に取り組んでいます。野草をガス化して発電する取り組みは全国に例がなく、草資源に恵まれた阿蘇で経済的にも成り立つしくみづくりを目指しています。

今年は、地域座談会を20箇所以上で開催。野草利用により草原を守っていくことについて

地元の方々の理解・協力を得て、20の牧野で採草をしています。現場では、地元の若手農家15名で組織するオペレーター組合が活躍しています。地元の人々が牧野や草の価値を再認識したり、組織づくりなどにも繋がっていくことに手応えを感じています。

農畜産業、観光、景観など、阿蘇は草原なくては成り立ちません。農畜産での草原利用を土台として、新しい利用を取り入れながら、千年の歴史ある草原を変わらぬ姿で守っていくことにつなげたいと思っています。